

あとの問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 次の①～⑤の——線の漢字のよみをひらがなで答えなさい。

- ① 新しい制服の寸法を測る。
- ② 取引先に商品を納める。
- ③ 説明を補う必要があるそうだ。
- ④ 物資の供給がとどこおった。
- ⑤ たくさんの情報から取捨選たくする。

(2) 次の①～⑤の——線のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 美子さんの絵はドクソウ的だ。
- ② 社会科学見学のハンチョウを選びましょう。
- ③ 様々なショウガイを乗りこえた。
- ④ 授業中の疑問を今日中にカイショウしたい。
- ⑤ ご先祖様をウヤマいましょう。

(3) 次の①～⑤の に入る共通のことばをあと の から選び、記号で答えなさい (同じ記号は使えません)。

① ほこりを 。
家を 。
顔を 。

② 月が 。
川に橋を 。
全速力で 。

③ 元気を 。
日記を 。
水に 。

④ あせを 。
水を 。
かゆいところを 。

⑤ 計画を実行に 。
ノートを借りて 。
鏡に 。

ア かく イ かける ウ うつす エ たてる オ つける

(4) 次の部首を持つ漢字をあとからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

① ぎょうにんべん

② さんずい

③ おおざと

④ くにかまえ

⑤ しんによう

ア 海 イ 都 ウ 陽 エ 道
オ 延 カ 後 キ 困 ク 区

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数については、「、」や「。」も一字に数えます。)

時間とともに姿を変える雪

雪の重さはどれくらい知っていますか？

降ったばかりの雪は、一立方メートルあたり約一〇〇キログラムといわれます。一般的な広さの二〇坪(一坪＝三・三平方メートル)の家の屋根に一メートルの雪が積もると、重さは六・六トンになります。

1 雪はどんな姿を変えていきます。降ってからしばらく時間がたつと気温が上がってとけ、その後、ふたたび冷えて氷となる。そのくり返しによって雪は固くしまり、降ったときと同じ体積でも、重さが三倍くらいになっています。つまり、見た目は同じ一メートルの雪でも、屋根の上には二〇トンもの雪が乗っていることになるのです。

二〇トンとは、乗用車約一三台分の重さ。そんなものが屋根の上に乗っているのだから大変です。当然、雪おろしをしなければ家はつぶれてしまいます。雪おろしは危険を伴う作業だし、屋根の雪がすべり落ちそうなときは、決して近寄ってはいけないと雪国の子どもたちは厳しく教えられます。

このように、^①積もれば積もるほどすごい重さになる。雪とは時間とともに姿を変えるものだと思えておかなくてはなりません。

2 さらに時間がたつと、雪はどうなるのでしょうか？

春になって気温が少しずつ上がると固くしまった雪がとけ、こんどは水に変わります。春は雪国の川に、冷たくすんだ雪どけ水がたつぷり流れる季節でもあります。

水は地球の上をぐるぐると循環^{じゅんかん}しています。地球は水の惑星^{ぐわくせい}といわれるほど、水がたくさんある星です。地球の表面の

三分の二は水でおおわれており、水の総量は一四億立方キロメートル。数字を聞いてもピンとこないほどの量ですが、じつはそのうち九七・五パーセントは海水です。淡水はたった二・五パーセント。しかも淡水のうち、かなりの部分が北極や南極の水なのです。川や湖にある淡水は地球全体のわずか〇・八パーセントほどでしかありません。

3 地球の一パーセントにも満たない水が、人間をはじめとする地上のさまざまな生きものの命をはぐくんではいるのです。これはまるで奇跡^{きせき}のようなこと。毎年当たり前のように降り積もる雪も、地球の大いなる循環の一部として、^②その奇跡を支えているのです。

日本に雪が降る理由は？

僕^{ぼく}が暮らす新潟県を始め、日本海側にこれほどたくさんの雪が降るのはなぜでしょうか？その理由は、大きく分けると三つあります。

第一に、大陸から吹^ふいてくる季節風。

第二に、日本海を流れる対馬海流。

第三に、本州や北海道の中央にそびえる山脈です。

冬になると、ユーラシア大陸の北部にはシベリア高気圧が発達し、上空に乾いた冷たい空気がたまります。それが季節風によって北西のほうから日本に流れてくるのですが、その通り道にあるのが日本海です。

日本海には、対馬海流が流れています。対馬海流は南から暖かな黒潮が流れこんでいるので、真冬でも水温が高いのが特徴です。そのため、海面に暖かくしめった空気が大量に発生し、水蒸気をいっぱい含んだ雲が^③つくられます。

この雲が、大陸からの季節風に流され、日本に向かって吹いてくる。そして本州や北海道の真ん中にある山脈にぶつかって上昇し、さらに冷やされて積乱雲が発達します。その中では「氷晶」^④とよばれる氷の結晶が発生して成長します。氷

晶はいわば雪の赤ちゃんです。とても小さく、〇・〇一ミリ以下ですが、雲の中で水分を得ながら大きくなり、雪となつて日本海側に降ってくるのです。

雪が地上に降ってくる時、周囲の気温が高いと、とけて雨になります。雪が雨になる目安は、地上の気温が二、三度の時。つまり、地上の気温がそれより低いときは、空から雪のまま地上に達し、それより高いときは雪が冷たい雨となつて降るのです。この仕組みは季節に関係なく、夏に降る雨も、じつはもともとは雪であることは意外と知られていません。

ちなみに、新潟から山脈を越えたところに位置する群馬県では、雪が降り終わったあとの水分が抜けた風が吹くため、「からつ風」で有名です。

日本海側には、このように雪が降る条件が整っています。もしも日本海がなかったとしたら、僕の暮らす新潟には冷たく乾いた風が吹き抜けるだけだろうし、日本列島の真ん中に山脈がなければ、「冬將軍」とも呼ばれるシベリア高気圧はするつと抜けて、太平洋に達してしまうでしょう。

雪はイヤだと思つても、この地域に雪が降るのはしかたがないのです。もつといえは、自然の摂理です。冬に雪が降るのはあたりまえで、人間の力ではどうすることもできません。でも、かつて東京よりも多くの人が新潟に暮らしてきたのは、それでもここに暮らす理由があつたからです。雪が降ることを受け入れ、雪に寄りそいながら、人びとは暮らしをいとなんできたのです。

雪は何色？

あたり一面に降り積もつた雪は、太陽の光を受けるとキラキラ輝きます。雪景色は「白銀の世界」と呼ばれたりしますね。そこで、質問です。

⑥ 雪はいつたい何色でしょうか？ 白色と多くの人が思うかもしれませんが。

ヒントは、雪が何からできているかを考えれば簡単です。

「雪は何でできているか知ってる？」

子どもたちに質問すると、全員が知っています。

「水！」

正解です。

「では、水は何色？」

この質問にも、みんなが答えます。

「とう明！」

その通り。水はとう明ですね。雪の結晶をよく観察してみると、薄いつう明な氷でできていることがわかります。多くの人は「雪は白い」と思っていますが、正確には「白く見える」といったほうがよいかもしれません。

ではなぜ、雪は白く見えるのでしょうか？

雪の結晶には、木の枝の集合のような複雑な形をしているものがあります。この結晶をつくりだしている薄い氷に光が当たると、光がさまざまな方向に反射します。これを「光の乱反射」といいます。じつは雪の結晶と結晶の間を、光が乱反射することで、人間には雪が白く見えるのです。

（伊藤親臣『空から宝ものが降ってきた！』より。※一部表記を改めたところがあります。）

問1 1 3 にあてはまることばを次から選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ または ウ しかし エ では

問2 線①「積もれば積もるほどすごい重さになる」とありますが、雪が「すごい重さ」になる理由を、40字以内で説明しなさい。

問3 線②「その奇跡」とはどのようなことですか。文中から50字以内でぬき出し、「くこと」に続くように、はじめとおわりの5字を答えなさい。

問4 線③「水蒸気をいっぱい含んだ雲がつけられます」とありますが、次の文は、そのような雲がつけられるしくみを説明した文です。 にあてはまることばを文中から（ ）の字数に合うようにぬき出しなさい。

冬になるとシベリア ア(3字) が発達し、上空にたまった空気が イ(3字) によって日本に流れてきます。日本海に流れる ウ(4字) は、水温が高い エ(2字) が流れており、海面に オ(4字) 空気が発生するため、水分を含んだ雲がつけられます。

問5 線④「本州や北海道の真ん中にある山脈」とありますが、これらの「山脈」があるのとないのでは、どのような気候の変化があると考えられますか。あてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 山脈があれば日本海側に雪が降り、なければ暖かくしめった雲はそのまま日本海側にぬけてしまう。
イ 山脈があれば太平洋側に雨が降り、なければ乾いた冷たい空気はそのまま日本海側にぬけてしまう。
ウ 山脈があれば日本海側に雪が降り、なければ暖かくしめった雲はそのまま太平洋側にぬけてしまう。
エ 山脈があれば太平洋側に雨が降り、なければ乾いた冷たい空気はそのまま太平洋側にぬけてしまう。

問6 線⑤「雪となって日本海側に降ってくる」とありますが、雨ではなく「雪となって」「降ってくる」ためにはどのような条件が必要ですか。具体的に答えなさい。

問7 線⑥「雪はいったい何色でしょうか。白色と多くの人が思うかもしれませんが、

(1) 雪は何色なのかを答えなさい。

(2) 「白色と多くの人が思う」理由を答えなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数については、「、」や「。」も一字に数えます。)

オール木成……木成小学校のポートボール代表チームのこと。「みどりちゃん」と「私(さえ)」は、地区大会で優勝し、代表選手としてオール木成に入るようになった。

ポートボール……バスケットによく似たスポーツで、ひとチーム六人一ゲーム五分間の三ゲーム制で行われるもの。バスケットとちがうところは、ゴールリングにシュートするのではなく、台に乗っているゴールマンにシュートをするところである。

やさお……オール木成の顧問兼コーチである遠藤先生のあだ名。

オール木成に入つたということで、私はピアノをやめることにした。毎週火曜日の四時からレッスンだったが、オール木成の練習は毎日六時ごろまであるから行けなくなったのだ。

でもそれは、ただお母さんを納得させるための言い訳だ。オール木成の中でも習い事をしている子は何人もいる。やさおに言つて、決まつた時間に帰る子もいるし、休日に曜日変更した子もいる。

だからオール木成に入つたことと、習い事をやめるということは、イコールではない。でも、初めのミーティングのときに、やさおはこう言つた。

「練習は必ず出ること。病気、けが以外での欠席は原則的に認めない」

実際このひとことで何人かは習い事をやめた。お母さんたちも、学校の行事ということで、案外簡単に習い事をやめさせてくれたみたいだった。そう、大人なんて結局なんだっていいのだ。学校から帰ってきて、すぐにテレビを観たりゲームを

したりしないで、ためになる「何か」をしていれば満足なのだ。

私はこれが絶好のチャンスとばかりにオール木成のことを持ち出して、ピアノをやめることを堂々と言つた。するとお母さんは、拍子抜けするくらいあつけなく了承してくれた。こんなだったならもつと早く言えばよかった、と後悔したくらいだ。

私はピアノが大きらいだった。ピアノというより、ピアノの練習がいやでしかたなかった。月曜の夜のあのあせり。あの感じ。でもどうしても練習をする気になれないもどかしさ。

私はみどりちゃんのことを考える。みどりちゃんと私は、同じピアノ教室に通つていて、その教室で春に発表会があった。市内の同じ系列のピアノ教室の生徒が集まつて、地元の文化会館で行われた小さいものだったが、私は案の定「練習をする」というセンスがまったくなく、いつまでたつても上達しなかった。私の弾く曲は、十分実力の範囲内の曲だったし、時間は十分すぎるほどあった。

にもかかわらず、いつまでたつてもちつとも上達しない私に、先生はあきれかえりながら、最終手段として「補習」という、思いもかけなかったとんでもない隠し技を提示してきた。

火曜日のレッスン日以外に、なんと日曜日まで特別にレッスンするというのだ。もちろん、発表会までの期間限定だし、これは先生の好意であつて無理に行かなくてもいいのだけれど、わざわざ先生が自分の時間を割いてまで教えてくれるというのに、行かないわけにはいかなかった。お母さんは先生に、申し訳ない、はづかしい、感謝します、と深々と頭を下げた。

でも、私は腹立たしかった。せつかくの休みにレッスンに行くなんて、まったくばかげている。本番になればどうにかなるし、今までの経験からすると、きつと私は三日くらい前から猛練習をして、なんとか弾けるようになるはずなのだ。

それにこの補習は私のためじゃない。本番で先生がはじをかかないための補習レッスンだと思えなかった。

私はしぶしぶとレッスンに行き、うんざりしながらみどりちゃんに、そのことを告げた。みどりちゃんは、同情とも哀れ^④みともつかない変な表情をして、

「大変だね」

とひとことだけ言った。

しかし、それからしばらくたつたある日、みどりちゃんは私に、

「うらやましいよ」

とポツリと言つたのだ。

「えっ、何が」

「ピアノ。レッスン日以外にも、先生から教えてもらえるなんていいなあ……」

私は自分の耳を疑つた。

「なんで？　なんでなんで。だつて無理やりやらされてるんだよ。あまりにも下手だから、しょうがないからやつてるんだよ。先生だつて本当はイヤイヤなんだよ」

「ううん、ちがうよ。さえちゃんには上手になつてもらいたいんだよ。期待してるの、先生は。発表会でうまく弾けるように」

「ちがう。絶対にちがうよ。ねえ、みどりちゃん、ほんとにそんなんじゃないんだよ」

「ううん、お母さんも言つてた。あんたも頼んで教えてもらいなさいって……」

そんなじゃないのに……どうして……。私はこのとき本当に、すごい衝撃を受けた。

みどりちゃんは、みどりちゃんの実力より少し上のランクの曲を発表会で弾く。それは、みどりちゃんならできると先生

が確信したからで、補習をしないのは、そんな余計なことをしなくても、みどりちゃんはきちんと家で練習してきて、完璧に弾けるのがわかつているから。

それなのに、なんでなんだろう。うらやましいなんて。人によつてこんなに受けとめ方がちがうなんて。それはとても怖いことで、私はその日みどりちゃんに言われたことが、頭から離れなかつた。自分がこうだと思つていたことが、ほかの人にとつてはまったく別の意味を持つ。怖いと思つた。ものすごい恐怖だつた。

みどりちゃんも、今月でレッスンをやめる。私は火曜日のレッスンがなくなり、課題を与えられなくなったことで、これからはもうピアノを弾かなくなるだろう。でも、みどりちゃんはレッスンをやめたあとも、ずっとピアノを弾き続けることだろう。自分ですすんで譜面を買つてきて、それができるようになるまで何度も練習をするだろう。

発表会当日、私は自信のなさのために、少しばかりテンポを速く弾きすぎてしまったけれど、それ以外はけっこううまくできた。先生もほつとした様子で、笑顔を見せてくれた。

でも、練習では完璧だつたみどりちゃんが、本番で二回もミスってしまったのだ。みどりちゃんはそれでも堂々としていたけど、心の中ではきつと残念に思つていたと思う。

それとも、私に対して「ほらね、さえちゃんは補習をしたから上手に弾けたでしょ。私は教えてもらえなかつたからまちがえて当然なの」と思つていたのかもしれない。そう考えるとうんと悲しかったけど、終わつてから「ほつとしたねー」となんのふくみもない晴れ晴れした笑顔で言われて、私はそんなふうに意地悪く思つてしまった自分を呪つた。

（椰月美智子『十二歳』より。※一部表記を改めたところがあります。）

問1 ——— 線①「言い訳」とはどのようなことですか。わかりやすく説明しなさい。

問2 ——— 線②「もどかしさ」について、

(1) 「もどかしさ」のここでの意味としてあてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア だれのせいにもできないくやしい気持ち イ 思うようにならなくていらだつ気持ち
ウ 楽しく心地よいとは思えない気持ち エ 好きなことができなくてつらい気持ち

(2) なぜ「もどかしさ」を感じているのですか。35字以内で説明しなさい。

問3 ——— 線③「私は腹立たしかった」とありますが、その理由を次のようにまとめました。
とばを文中から()の字数に合うようにぬき出しなさい。 にあてはまるこ

ア(2字) レッスンをすることは、先生の イ(2字) ということだが、さえば本番までにはなんと
か弾けるようになれると思っている。それなのにレッスンをするということは、先生自身が ウ(2字) を
かかないように ア をしようと言っているとは思えず、そのために エ(3字) までレッスンに行か
ねばならないことに腹を立てている。

問4 ——— 線④「同情とも哀れみともつかない変な表情をして」とありますが、「みどりちゃん」はこのときどのような
気持ちだったのか説明しなさい。

問5 ——— 線⑤「怖いと思った。ものすごい恐怖だった」とありますが、どのようなことに「恐怖」をおぼえたのです
か。あてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 同じ出来事でも正確性に欠けている部分があるため、友だちにとっては別の内容が入ってくるということ。
イ 同じ出来事でもそれぞれの経験によって見方が変わってくるため、友だちには新せんに見えていたということ。
ウ 同じ出来事でも人によってとらえ方がちがっていて、友だちは自分が思ったこととちがうことを考えていたこと。
エ 同じ出来事でも人によって立場がちがっていて、自分にはわからない友だちからの意見が聞けるということ。

問6 ——— 線⑥「私はそんなふうに意地悪く思ってしまった自分を呪った」について、
(1) 「そんなふう」とありますが、その内容を答えなさい。

(2) 「自分を呪った」ときの「さえ」の説明として最もあてはまるものを次から選び、記号で答えなさい。

ア みどりちゃんの晴れ晴れとした笑顔がうそに思えてしまった自分がいやになってしまっている。

イ 本番で速く弾いてしまったことをみどりちゃんのせいにした自分がいやになってしまっている。

ウ 「うらやましいよ」というみどりちゃんの発言を気にしている自分がいやになっている。

エ 本番で失敗したみどりちゃんの気持ちについてよくない見方をした自分がいやになっている。

